

第5学年1組 道徳学習指導案

日時：平成29年12月6日（水）5校時

場所：2階 多目的ホール

指導者：教諭 佐藤 史子（T1）

講師 小池 裕也（T2）

1. 主題名 自分らしさの発見 A－（4） 個性の伸長

2. 主題について

（1）ねらいとする価値について

本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編によると、A「主として自分自身に関すること」の個性の伸長に際して、長所及び短所を明確にするために、「自分の特徴を知って短所を改め長所を伸ばす」ことに関する内容項目である。

トマトはトマトであり、メロンはメロンであることの意味を十分に考えさせたい。それは、そのものの持つよさがあることを見つけ出すことであり、自分に誇りや自信が持てるものを見つけ出すことである。深く自分を見つめ、自分のよさに気づき、自分自身を正しく知ることは、自分らしさを発揮し充実した生き方をするためにも大切なことである。長所を伸ばし、短所を改めるように努力することは、自分を高めることにもつながり、自信を持って生きることになる。

高学年になり、自分の特徴やよさ、得意なこと、苦手なことへの関心が高まってくる。友達との比較や第三者からの指摘で自分自身を見つめるようになり、友達と互いのよさや短所を認めるようになってくる。

そこで、最高学年への進級を控えたこの時期に、自分をかけがえのない大切な存在として捉え、自分にはどんなよさがあるのかに気づき、そのよさを生かすことの大切さを知ること、自分の長所を意識的に伸ばしていこうとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

（2）児童について

①意識調査の結果から

本学級は、男子8名、女子7名の計15名の学級である。男子は明るく活発な児童が多く、よく発言するが、女子は自分から意見を発表することは少ない。

高学年になり、自分が周りからどのように見られているのかを気にするようになってきた。みんなと違うから恥ずかしい、同じものを持っていないとかっこ悪い、などと思っている子も少なくない。

本時の授業を行うにあたって、関連する意識調査の結果は、以下の通りである。

	身に付いている	どちらかと言えば 身に付いている	あまり身に付いていない	今後身に付けたい
自分の悪いところは直し、よいところは積極的に伸ばそうとする。	6人	8人	0人	1人
正しいと決めたことは、勇気を持って行う。	5人	8人	1人	1人
うそをついたりごまかしたりしないで明るく元気に生活する。	7人	6人	1人	1人

このことから、よいところを積極的に伸ばし、短所を改めていきたいという気持ちは比較的高い。しかし、日常の様子から、実際行動に移すとすると、控えめな態度になってしまいがちであることが分かる。

②自分の考えや意見を交流する様子から

児童間の意見の交流は、道徳の時間や朝の会の時間に自分の考えをみんなの前で話したり、友達の意見を聞いたり、スムーズに行うことができるようになってきている。

道徳の時間には、これまでも「あやまちをゆるすことって」や「トラブルはなくなるか」など、意見の交流を取り入れた授業を行ってきた。友達と意見を交流する活動を通して、自分の考えを整理して話したり、友達の考えと比べて考えを深めたりしていく様子が見られるようになってきている。

(3) 資料について

① 資料名 「トマトとメロン」

② 価値 A- (4) 個性の伸長

③ 資料について

本資料は、トマトにいくら肥料をあげてもメロンにはならないという、きわめて当然のことから始まっている。トマトはトマト、メロンはメロンであることに気付いた子どもたちは、よりトマトらしく、メロンらしくなろうと理想をもち、精一杯努力する姿を描くことができるであろう。自分らしさを発見することが大切であり、それを認識した児童は、前向きに目的を持つこともできると思われる。

④ 資料分析 (別紙)

(4) 指導にあたって

トマトとメロンの話として受け止めながらも、自分のこととして考えさせたい。人間にはそれぞれに個性があり、尊重されなければならないことは誰しも分かっている。しかし、個々の個性を短所と錯覚し、自分自身でそれを否定してしまったり、他の人と違うことに劣等感を抱いたりしてしまい、必要以上に自分を追い込んでしまうことが起こりがちである。ありのままの自分をしっかりと受け止め、自分の個性を理解するとともに、それを大切に伸ばしていこうとする前向きな心情を育てていきたい。

まず、事前に「トマトとメロン」の資料を読ませて、詩の全体の流れや言葉の意味について読み取らせておく。その後、一人ひとりに「自分のよいところと変えてみたいところ」を書かせておく。

導入では「自分のよいところ」を紹介し、日常生活でのよさを想起させるとともに、友達のよさについても改めて考えさせ、再確認させる。また、心情円盤を用いて自分自身に対する満足度がどの程度であるかを視覚的に捉えさせる。

展開前半では、「トマトとメロン」それぞれの持つ長所に注目して比較させ、児童同士で意見を交流させて、比べることの無意味さに気付かせていく。その際、円座の形態で意見を交流させることで、児童同士が相手を意識し、意見の交流が出来るようにする。

展開後半では、「トマトとメロン」の資料を用いて、「自分のいのちを百点満点に生きている」というところに着目させ、自分のよさを見つけ、伸ばしていく大切さに気付かせたい。まず、資料から「自分のいのちを百点満点に生きる」という事を考える。次に児童一人ひとりの「自分のよさ」

を自覚させる。その際に、児童同士で行った「よいところ探し」のメッセージや保護者に協力してもらって用意していた児童のよさをほめる内容の手紙を一人ひとりに渡し読ませる。

次に、再び心情円盤を使って児童自身の現在の生活は、百点満点のどのくらいであるかを視覚的に表現させ、児童の心情が導入時とどう変わったのか変容を見取る。

次に、「百点満点に生きる」ためにはどうしたらよいのか、自分の考えをワークシートに書かせることで自分の考えをまとめさせる。その後全体で意見の交流させて本時のねらいに迫っていく。

本時は意見を交流させる場面で、TTの指導形態をとる。意見の交流の輪の中に複数の教師が一緒に入ることで、児童間の交流を深めていきたい。また、必要に応じ、教師から多様な視点に気付かせる補充発問することで、物事を多面的に捉えさせていきたい。

最後に、

(5) 宮城県学力向上に向けた5つの提言との関連

本主題では、「学力向上に向けた5つの提言」を踏まえて、次のような学習活動を設定する。提言**1**と**2**を踏まえ、児童に考えを積極的に発言させ、考えを取り上げて、ほめたり認めたりする。また、**3**を踏まえ、本時のねらいを明確にし、授業のまとめの段階で振り返りの時間を設定する。提言**4**を踏まえ、対話の前に資料を読んで感じたことを、ワークシートに書く活動を取り入れ、自分の考えをまとめさせる。提言**5**を踏まえて、事前に資料を読ませておき、本時では資料の読み取りではなく、ねらいとする価値について自分の考えを深めるようにさせる。

3 校内研究との関わり

(1) 研究主題

「思いやりとたくましさを持つ児童の育成」
～自他との対話の中で考えを深める授業実践を通して～

(2) 研究の視点との関わり

本授業は、本校の研究主題を受け、特に児童の実態から自分のよさを見つめ、自己肯定感を高めることをねらったものである。

【視点1】道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深める授業展開の工夫

- ①事前読みで資料の大まかな流れといくつかの言葉の意味を押さえ、本時では自分のいのちを百点満点に生きていることを考える活動にスムーズに入っていくことができるようにする。
- ②意見の交流の前に書く活動を取り入れ、一人ひとり自分の考えをまとめる。
- ③意見の交流を通して、比べるということの無意味さに気付かせ、それぞれの個性やよさの理解を深める機会を設ける。

【視点2】意識調査、自己評価の活用の工夫

- ①毎時のワークシートは、「こころのあしあとファイル」にファイリングし、児童自身も自己の成長や変容を自覚できるようにする。
- ②道徳の時間に活用するワークシートは、「①中心発問に対する考え、②意見の交流の前に考えること、③本日の学習の感想」の構成で作成する。

4 本時の指導

(1) ねらい

「トマトとメロン」の資料を手がかりにして自分の持つ個性を大切にし、それを伸ばしていこうとする心情を育てる。

(2) 準備物

- ①教師：ワークシート 児童の意識調査の結果
- ②児童：みんなで考える道徳 筆記用具 心情円盤

(3) 指導過程

段 階	学習活動 ・ 予想される児童の反応	○指導上の留意点 ◇評価 【■ 5つの提言】 (視点1-①) 校内研究の視点
事 前	<p>【家庭学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の「よいところと変えてみたいところ」を考え、ワークシートに記入する。 <p>【朝の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読む。 	<p>○事前に家庭学習で資料を読ませ、詩の全体の流れや言葉の意味について読み取らせる。</p> <p style="text-align: right;">【提言5】(視点1-①・②)</p> <p>○自分自身について考え、長所に気付かせながら、事前に自身のよさを書かせておく。 【提言3】 (視点1-①)</p>
(本時) 導入 5分	1. ワークシート「自分のよいところ」をもとに、それぞれのよさを知る。	<p>○自分たちの日常生活でのよさを想起させる。</p> <p>○自分とそして友達のよさについて再確認させる。</p> <p>○気持ちを表す心情円盤を持たせ、現在の自分自身に対する満足度を赤はプラス、青はマイナスの評価で視覚的に捉えさせる。</p>
展 開 33分	<p>2. 「比べる」ことについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>トマトとメロンはどちらがいいか。</p> </div> <p>(メロン派)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・値段が高いから。 ・高級感がある。 ・おいしい。 <p>(トマト派)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養があるから。 ・いろいろな料理に使うから。 ・赤くてかわいい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「どちらかがいい」と言うことができますか。</p> </div>	<p>○児童同士が相手を意識し、意見の交流が出来るように円座の形態を作る。</p> <p>○「トマトとメロン」の話題に入る前に、児童が事前に書いておいた「自分のよさ」を使って、児童同士の異なったよさを比較させ意見を交流する雰囲気を作る。</p> <p>○友達の見解を聞いたり、自分の意見を発表したりして意見の交流をさせる。その時、理由や根拠を話すことができるよう励ます。</p> <p>○それぞれのイメージについて尋ね、できるだけたくさんの意見を出せるよう支援する。</p> <p>○トマトとメロンという比喻を使いながら、人はそれぞれによさがあり、そのことを比べることの無意味さに気付かせる。</p>

3. 資料「トマトとメロン」を読んで話し合う。

「百点満点に生きる」について考える。

自分のいのちを百点満点に生きるとは、どんな生き方のことでしょうか。

・自分らしく生きる。

4. 「自分のいのちを百点満点に生きる」を自分の事として考える。

(1) 自分のよさを知る。

(2) 「百点満点に生きること」について考える。

自分のいのちを百点満点に生きるためには、どうしたらよいでしょうか。

- ・自分のよさを伸ばすような努力をすること。
- ・よさを発揮すること。
- ・一生懸命やること。
- ・いのちをむだにせず、まっとうすること。

○よさを再確認し、それを大切にしようとする意識を高めることができるような問いかけをする。

◇個性やよさに気づき、大切にしようという心情が高まったか。(話し合いの様子・発言)

【提言1 2】(視点1-③)

○資料から「自分のいのちを百点満点に生きる」とは、どんな生き方をすることなのか捉える。

○導入時で触れた児童のワークシートに書いたことを振り返り、自分のよさについて再び考えさせる。

○児童一人ひとりが、自分のよさについて多面的に考えるための手立てとして、ワークシートの記述を振り返るだけでなく、児童同士で行った「よいところ探し」のメッセージや保護者からの手紙を読ませる。

○気持ちを表す心情円盤を待たせ、現在の自分の生き方は、百点満点のどのくらいかを視覚的に捉えさせる。

○主体的に意見を交流させるために、ワークシートに考えを書かせてから、児童同士で意見を交流させる。

○短所に目を向ける児童については、短所も個性の一部であることを受け止められるような言葉かけをし励ます。

○意見の交流時には、友達の考えにからめて発言するよう励ましていく。(視点1-②・③)

○大切なのは、人と比べてどうかということではなく、自分の個性やよさを発揮して生きていくことだということを理解させる。

		◇自分の個性に目を向け、それを肯定的に捉えようとしているか。 (発言, ワークシート) 【提言4】(視点1-②)
まとめ 7分	5. 今日の授業の振り返りをする。	○本時の学習で、思ったこと、気付いたことなどを書かせ、数名に発表させる。 【提言3】

(4) 評価の計画

○自分の個性やよさに気づき、大切にしようとする心情を育てることができたか。

(話合いの様子・発言)

○自分の個性に目を向け、それを肯定的に捉えようとしているか。

(発言, ワークシート)

(5) 板書計画

...

自分のいのちを
百点満点に生きる

トマトとメロン
相田みつを

・トマトとメロン